

総括質疑から 主な質疑と答弁

いじめ対策について

Q いじめ対策については、「福岡県いじめレスキューセンター」などの事例を参考に、多様な相談体制の構築、他部局連携、専門人材の配置など大幅な機能強化が必要だと考えるがどうか。

A 既存の電話相談窓口「子どもスマイルネット」では、いじめを含めたさまざまな相談を受け付け、適切な専門機関に直接つなげるなど、福岡県のセンターとほぼ同等の機能を有していると考えますが、他の機関や取り組みを参考にしながら改善することは非常に重要なことと考えるため、関係部局との調整や専門家への意見聴取を行いながら、他の事例を参考にしていく。

性暴力・性犯罪対策のための支援体制について

Q 性犯罪・性暴力被害者の支援センターであるアイリスホットラインについては、人手不足による相談業務の質の低下を防止し、より適切な運営を行うために、人員加配を含めた支援をすべきと考えるがどうか。

A 現在7名の相談員で対応しているが、病院への付き添い支援などの相談以外の業務では、犯罪被害直接支援員8名が援助を行っている。現時点では、相談員1日当たりの相談件数は1件に満たない状況であるため、直ちに人員加配が必要な状況にはないと判断している。

増加する外国人に対する方策について

Q 知事は県内の外国人増加による治安悪化について明確なファクト(事実)はないと答弁しているが、県民の体感治安は悪化しているという話もある。刑法犯や外国人犯罪が増加している中で、県民の体感治安を改善するためにどのように取り組むのか。

A 治安維持については知事から独立した県警察が所管している。知事ができる分野として、警察署の新設や警察官増員を進め、地域のパトロールを行う自主防犯活動団体や市町村の防犯カメラ整備の支援を行っている。引き続き、地域の治安維持体制強化に向けた支援を行うことで体感治安の改善につなげていきたい。

八潮市道路陥没事故等の対応について

Q 八潮市道路陥没事故等の対応について、汚水処理の広域化は国が推進してきた以上、国にさらなる財源を求める必要があると考えるがどうか。

A 大規模流域下水道の整備は、国の方針に基づき推進されてきたことから、国の財政支援は非常に重要だと考える。これまで国に対して、財政支援などさまざまな要望をしているが、引き続きあらゆる機会を通じ、国に要望していく。



附帯決議

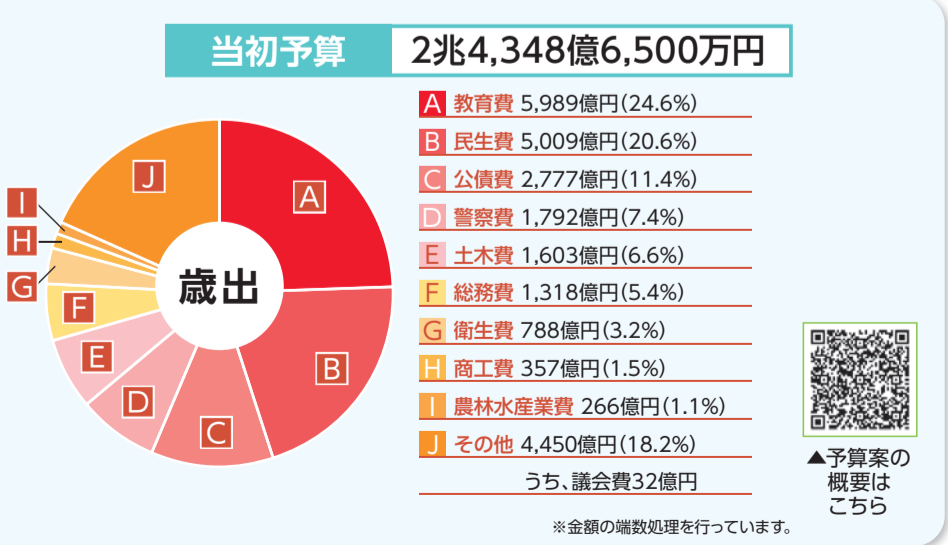
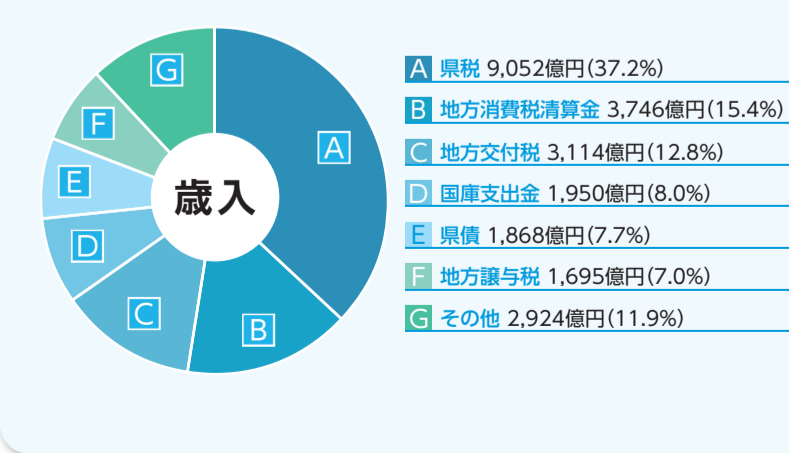
次の事業などについては、執行方法に関して適切に対応するよう求めました。

- 県庁舎の位置の選定
- 公立学校における生命の安全教育
- 保育士・幼稚園教諭・児童養護施設職員・介護士・看護師等の処遇改善
- アイリスホットラインの相談対応体制の強化
- いじめ対策
- 移動木造応急住宅の事業趣旨の精査と費用対効果の検証
- 県立高校体育館等への空調整備

予算特別委員会 委員名簿 (令和8年3月27日現在)

委員長	梅澤 佳一 (自民)	泉津井京子 (民主フォーラム)	城下のり子 (共産党)	杉田 茂実 (自民)	宮崎 吾一 (自民)	永瀬 秀樹 (自民)
副委員長	小川真一郎 (自民)	鈴木まさひろ (自民)	平松 大佑 (県民)	阿左美健司 (自民)	関根 信明 (自民)	荒木 裕介 (自民)
副委員長	権守 幸男 (公明)	須賀 昭夫 (自民)	八子 朋弘 (県民)	千葉 達也 (自民)	藤井 健志 (自民)	萩原 一寿 (公明)
		渋谷真実子 (自民)	松坂 喜浩 (県民)	小川 寿士 (民主フォーラム)	美田 宗亮 (自民)	水村 篤弘 (民主フォーラム)
		東山 徹 (自民)	柿沼 貴志 (自民)	中川 浩 (改革)	安藤 友貴 (公明)	高橋 政雄 (自民)
		戸野部直乃 (公明)	小川 直志 (自民)	松井 弘 (自民)	町田 皇介 (民主フォーラム)	

令和8年度 一般会計予算の概要



▲予算案の概要はこちら